

外部講師による講話を実施しました！

総合的な学習の時間に行っている「キャリア教育プログラム(課題解決編)」の活動の一環で、9月14日(木)に続き、9月29日(金)にも外部講師による講話を実施しました。

今回は、「様々な立場の人たち(①高齢者、②障がいのある方、③外国出身の方、④性的マイノリティ当事者の方)が抱える課題を解決する仕事・支援をしている人」をお招きし、取り組んでいること、どのような想いで活動しているかなどのお話を聞きました。

※9月号の続き・・・

講話② 様々な立場の人が抱える課題を解決する仕事・支援をしている方のお話を聞く

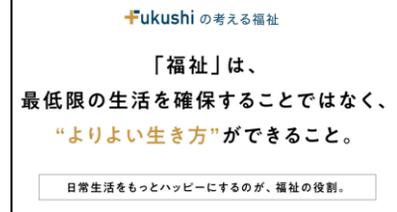
① 高齢者の課題解決に取り組む企業 (Plus Fukushi株式会社)

<講話の様子>



「福祉のインフラを創る」ために、福祉を受ける人だけではなく、福祉で働く人も幸せになれるための取り組みを教えてくださいました。福祉に関わる＝介護士として働く以外にも様々な貢献の仕方があることを学びました。

<講話のスライド(一部)>



<生徒の感想>

現在、10人に1人が80歳以上だと聞き、将来どんな仕事についても福祉のためにできることを考えたいと思いました。

介護の仕事は、大変で高齢者介護というイメージが強かったですが、講師の方の介護の概念を変えたいという言葉にすごく魅力を感じました。



② 障がいのある方の課題解決に取り組む企業 (株式会社インクルーシブデザインソリューションズ)

<講話の様子>



障がいのある方なども商品やサービスの企画や設計に関わるインクルーシブデザインという考え方について教えてくださいました。

障がいのある方の視点を生かしながら、誰もが使いやすいものを一緒に作る考え方を学びました。

<券売機の不便さについて>
一見不便そうに見えないが、車いすの方にとっては使いづらいデザインになっていることを教えていただきました。



<生徒の感想>

少しずつバリアフリーができてきているけど、まだ不便なことがあるなどの問題が早く終わってほしいと思った。

自分達が思ってもない所で不便を感じるがあったのかと知ることができました。



③外国出身の方の課題解決に取り組む人（個人事業主、StationAI入居者）

<講話の様子>



両親が日本語をあまり話せず、幼少期から様々な手続きを行ってきた経験があり、その時の困りごと、悩みをもとに、外国の方向けの行政手続きの翻訳アプリを開発しているという話を聞きました。

<開発中のアプリ>



困ったで終わりにせず、どうやったら解決できるだろうと考え、行動することの大切さを学びました。

<生徒の感想>

自分達が思っている以上に大変なことが多くて、自分達にも何かできることがあればやりたいと思った。

小学生のときの悩みがもとになって、アプリをつくって解決しようと思ったのがすごい。いま悩んでいることを解決する方法をしっかりと考えて、アプリをつくったら、それを仕事にできるかもしれないと思ったし、やりがいがありそう。



④性的マイノリティ当事者の方の課題解決に取り組む団体（にじいろ保育の会、名古屋あおぞら部）

<講話の様子>



「男の子は、青」「女の子は、ピンク」など男女のイメージの決めつけを取り除いた、ジェンダーニュートラルな保育を行っている、「にじいろ保育の会」と、「LGBTQ+」の当事者の若者同士が交流できるコミュニティをつくらうと立ち上がった「名古屋あおぞら部」の方をお招きして話を聞きました。

活動を始めた経緯や、どのような想いで取り組みをしているかや、当事者として抱えてきた苦悩や課題について学びました。

<生徒の感想>

自分の妹が今4歳で、これから関わる時に男女のイメージを押し付けるような発言をしないように気を付けようと思いました。



相手の「ありのまま」を否定しないで多様なものとして受け止める。助ける・助けられるの関係ではなく同じ目線で寄り添える人に今からでもなりたと思いました。



講話を終えて、これまで目に留めていなかった日常や社会の中の課題に関心をもつようになった人も多いのではないのでしょうか。

11月からは、実際に自分たちで解決したい課題を選び、解決するためのアイデアを出してもらいます。

11月を迎えるまでの中で、自分ならどんな困りごとや悩みを解決したいと思うか、ぜひ考えておいてくださいね

キャラナビの
つぶやき



課題発見

